

湖底環境改善によるアサリ漁場機能回復研究

(予算区分 県単独 研究期間 平成21年～23年度)

担当：浜名湖分場

【研究の背景とねらい】

浜名湖のアサリ漁獲量は、海水流入増大に伴う生息場所の縮小と食害の増加から、豊漁期約1/3の3～4千トンで推移しています。漁獲量回復のためには、アサリを安定生産できる“場”を増やすことが必要不可欠です。しかし、生産性が低下した漁場では操業が行われないことで、食害生物の濃密分布や地盤の硬化などが起こり、これらを解決しなければ漁場を拡大することが出来ません。

一方、これまでの研究により、ツメタガイは礫底を嫌い摂餌量が低下すること、湖底面の流れを抑制することで稚貝が集積しやすくなることが明らかになりました。そこで、食害防除やアサリ稚貝の集積を目的とした湖底環境改善によるアサリ漁場機能回復技術を開発します。具体的には、主に禁漁区をモデル地区として、砕石散布や耕耘等の効果を検証します。

【期待される効果】

- ・食害防除が可能な礫の最小サイズや密度、施工コスト等が明らかになります。
- ・稚貝の移殖先や母貝場としての利用など、禁漁区の高度活用が推進されます。
- ・かつての主漁場（湖南部の濁筋漁場）を復活させる具体的な技術として応用可能です。



期待する効果の一例（礫地での稚貝集積と食害防除効果）

【年次計画】

項目	内容（検討項目ほか）	H21	H22	H23
(1) 砕石散布等による食害防除効果	水槽	・砕石のサイズや施工方法		
	現地	・カキ殻等の他の資材の探索		
(2) 砕石散布等によるアサリ稚貝集積効果	現地	・水槽実験の結果を元に試験区を設置		
	現地	・食害状況（天然及び放流アサリの減耗）		
(3) 耕耘によるアサリ稚貝集積効果	現地	・アサリ稚貝の出現状況		
	現地	・散布した砕石等の沈降や拡散状況		
(4) 費用対効果	現地	・湖底面の安定性評価		
	現地	・ジェット噴射機による湖底耕耘		
		・アサリ稚貝の出現状況		
		・底質の改善効果（粒度組成ほか）		
		・利益率（漁獲金額／施工コスト）の試算		

(作成 平成21年4月)